

2020 年 3 月期第 3 四半期決算に関する電話一斉取材 主な Q & A

[業績予想の修正]

Q： 運輸収入について新幹線（定期外）の第 4 四半期の見通しは。

A： 基礎は前年と同程度の見通しである。第 4 四半期における北陸新幹線の天候災害による減収額は、運行本数の減により△10 億円程度を見込んでいる。北陸新幹線の断面輸送（前年比）は、10 月は 71%、11 月は 90%、12 月は 96%と回復傾向にある。今後の動向を注視していく。

Q： インバウンド収入は 300 億円（4 月計画）から△20 億円となるが分析は。

A： 第 3 四半期におけるインバウンド収入は 200 億円（対前年+10 億円・対計画△20 億円）であった。国別の実績等は把握していないが、7 月以降韓国からの訪日外客数が減少しており、一部の特別企画乗車券の発売への影響は出ている。

Q： 単体営業費用のうち、物件費その他が 4,550 億円（4 月計画）から+90 億円となる理由は。

A： 4 月計画では見込んでいなかった、Suica の鉄道利用でのポイント付与やキャッシュレスの支払いによる還元率アップ等の JRE POINT に係る施策（+30 億円）や、土木構造物保険の損害保険料の増（+30 億円）等を新たに計画に加えたためである。

[単体]

Q： 次世代新幹線 ALFA-X の試験費はどの程度計上されたのか。

A： 今年度計画している 120 億円の大半が第 4 四半期に計上される予定である。

[その他]

Q： 10 月から開始された一連の JRE POINT に係る施策の効果は。

A： 会員数は 9 月以降 150 万人以上増加し、12 月末時点では 1,170 万人となっている。現時点では大きな増収に結びついているとは言えないが、今後の動向を注視していく。

以 上